

佐倉市萩山新田大久保遺跡

— 主要地方道佐倉印西線(佐倉市田町)事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成27年12月

千葉県教育委員会

佐倉市萩山新田大久保遺跡

- 主要地方道佐倉印西線（佐倉市田町）事業埋蔵文化財発掘調査報告書 -



序 文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡が埋蔵文化財包蔵地（遺跡）として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会は、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的としたこれまでの諸活動に加え、平成25年度から千葉県が行う開発事業にかかる発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について直接実施することとしました。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第7集として、主要地方道佐倉印西線（佐倉市田町）事業に伴って実施した佐倉市萩山新田大久保遺跡の発掘調査報告書です。この調査では岩名6号墳の周溝が検出され、隣接地の調査事例と合わせて、古墳の墳形や規模、そして築造された時期が明らかになりました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する理解を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大な御協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

平成27年12月

千葉県教育委員会
文化財課長 永沼律朗

凡　例

1 本書は、千葉県県土整備部印旛土木事務所による主要地方道佐倉印西線道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2 本書は、下記の遺跡を収録したものである。

　萩山新田大久保遺跡 佐倉市岩名字 963-1 ほか（遺跡コード 212-048）

3 発掘調査及び報告書作成に至る整理作業は千葉県教育庁教育振興部文化財課が実施した。

4 調査組織及び発掘調査と整理作業の期間・担当者は以下のとおりである。

○平成26年度【発掘調査】

千葉県教育庁教育振興部文化財課

文化財課長 永沼 律朗

発掘調査班長 蜂屋 孝之

担当者 主任上席文化財主事 香取 正彦

実施期間 平成26年7月14日～7月30日

○平成27年度【整理作業・報告書刊行】

千葉県教育庁教育振興部文化財課

文化財課長 永沼 律朗

発掘調査班長 蜂屋 孝之

担当者 文化財主事 牧 武尊

実施期間 平成27年5月1日～6月30日

5 本書の執筆・編集は牧 武尊が行った。

6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、佐倉市教育委員会、千葉県県土整備部道路整備課、同印旛土木事務所ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。

7 本書で使用した地図の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。

8 本書で使用した地形図は下記のとおりである。

　第1図 国土地理院発行 1/25,000 地形図「佐倉」 平成22年

　第2図 佐倉市発行 1/2,500 佐倉市基本図 平成24年

　第8図 佐倉市発行 1/10,000 佐倉市基本図 平成24年

9 土層の注記に記載した色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖 2007年版」に基づいている。

10 図版1の航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。

本文目次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査の概要.....	1
1 調査に至る経緯.....	1
2 調査の方法と経過.....	1
第2節 遺跡の位置と環境.....	4
1 遺跡の位置と地形.....	4
2 周辺の遺跡.....	4
第2章 検出した遺構と遺物.....	6
第1節 検出した遺構.....	6
1 001 (岩名6号墳周溝).....	6
2 002 (溝状遺構).....	6
第2節 出土遺物.....	6
第3章 総括.....	9
報告書抄録.....	卷末

挿図目次

第1図 遺跡位置及び周辺の遺跡.....	2	第5図 002溝状遺構断面図.....	8
第2図 事業範囲及び調査範囲.....	3	第6図 出土遺物.....	8
第3図 基本層序.....	4	第7図 岩名6号墳墳形推定図.....	9
第4図 調査区平面図・周溝断面図.....	7	第8図 岩名古墳群配置図.....	10

表目次

第1表 岩名古墳群の概要.....	11
-------------------	----

図版目次

図版1 航空写真 (S=約1/9,000)

図版2 調査状況・出土遺物

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査に至る経緯

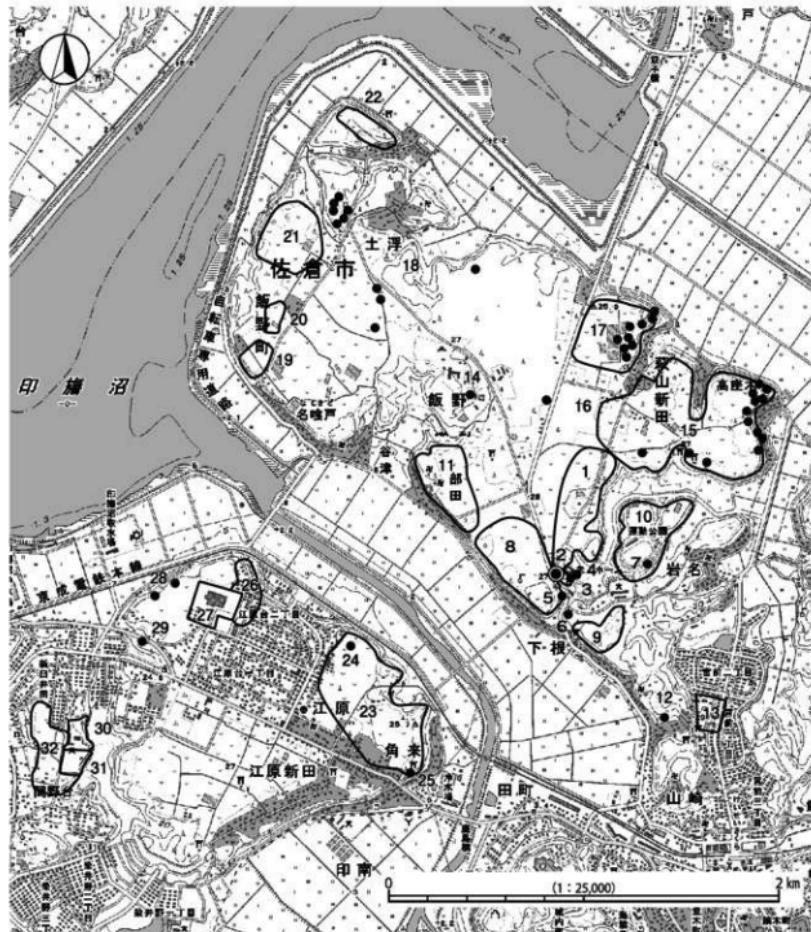
佐倉市は千葉県北部のほぼ中央に位置する。市の主要な道路として、東京と成田を結ぶ東関東自動車道や国道51号、市を東西に横断する国道296号などがある。国道296号と南北に交差する佐倉印西線は、近年の当該地域の宅地開発などによって交通量が増加傾向にあることから、交通混雑の解消及び歩行者の安全などを図るため、道路改良による整備計画が立てられた。この整備計画にあたって平成9年12月に、千葉県印施土木事務所長より事業地内における「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会へ提出された。千葉県教育委員会では現地踏査などの結果を踏まえ、平成11年8月に事業計画地内に遺跡が所在する旨の回答を行い、その取扱いについて関係機関による協議を重ねた結果、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなった。

平成12年度、平成14年度に財団法人千葉県文化財センター（現 公益財団法人千葉県教育振興財団）により、予定地内的一部の発掘調査が実施されている。今回の調査は、平成26年度に予定地内の佐倉市田町バイパスの岩名地区において工事が計画されたことから実施したものである。

2 調査の方法と経過

千葉県教育委員会は平成26年7月14日に、調査対象範囲349m²に対して発掘調査を開始した。平成25年度の佐倉市教育委員会による隣接地の確認調査の結果から、岩名6号墳の周溝が検出されることが確実であったため、重機による調査範囲の表土除去を行い、遺構・遺物の検出に努めた。その結果、調査対象範囲の北部に古墳の周溝と、中央部に溝状遺構を1条検出した。これらの遺構の調査終了後、旧石器時代を対象とした下層（立川ローム層）の確認調査を2m×2mのグリッドを設定して実施した。遺物の出土がなかったため、確認調査で下層の調査を終了した。記録作成は調査対象範囲に打設した測量杭の成果を使用して、平板測量による地形測量図、遺構平面図、遺構断面図について実測を行った。写真撮影は35mmカラーリバーサルフィルム、6×7モノクロとともに、デジタルカメラ（Raw・JPEGデータ）により実施した。そして平成26年7月31日に重機による埋め戻し作業を行い、調査前の状態に復旧して現地作業を終了した。

平成27年5月1日から6月30日まで整理作業を実施した。はじめに調査図面・写真的記録整理と、出土した遺物の水洗注記を行った。次に調査図面について鉛筆トレース・修正を行った。また写真図版用の写真を選出し、仮レイアウトを作成した。そして挿図や写真図版の原図をもとにデジタル編集によるトレースや写真補正などを行い、挿図・写真図版を作成した。その後、原稿執筆・編集・校正を経て、報告書刊行に至った。また、編集作業と併せて収納作業も実施した。



- | | | | |
|-------------|---------------|-------------------|-----------------|
| 1 萩山新田大久保道路 | 11 飯野新坂道路 | 21 飯野町丁遺跡 | 31 間野台・古屋敷B地区遺跡 |
| 2 岩名6号墳 | 12 山崎ひょうたん塚古墳 | 22 土浮花輪遺跡 | 32 間野台・古屋敷C地区遺跡 |
| 3 岩名3号墳 | 13 岩名天神前遺跡 | 23 角来山王台遺跡 | |
| 4 岩名2号墳 | 14 飯野仲尾余古墳 | 24 角来胸形1号墳 | |
| 5 岩名4号墳 | 15 萩山新田中峰遺跡 | 25 角来坂1号墳 | |
| 6 岩名5号墳 | 16 萩山古墳群 | 26 江原台第1遺跡（1区・2区） | |
| 7 岩名1号墳 | 17 萩山新田中芝遺跡 | 27 江原台遺跡 | |
| 8 岩名町前遺跡 | 18 土浮古墳群 | 28 白井田遠部台横穴墓群 | |
| 9 下根町中居屋遺跡 | 19 飯野町戊南遺跡 | 29 角来野谷1号墳 | |
| 10 岩名姿山遺跡 | 20 飯野町戊北遺跡 | 30 間野台・古屋敷A地区遺跡 | |

第1図 遺跡位置及び周辺の遺跡



第2図 事業範囲及び調査範囲

第2節 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置と地形（第1～3図）

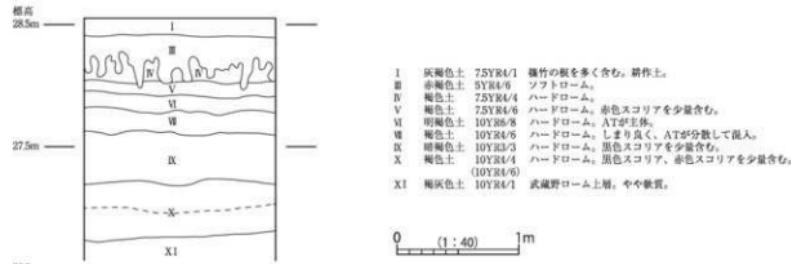
萩山新田大久保遺跡は佐倉市岩名963-1ほかに所在する。遺跡が所在する佐倉市は、県の北西部に広がる下総台地の中央部に位置しており、佐倉市北部は印旛沼によって印西市との市境をなし、酒々井町、八街市、千葉市、四街道市、八千代町などと接している。市域の大半を占める下総台地の標高は、20m～30mを示し、市内を流れる鹿島川や高崎川などの河川は、樹枝状に延びた広い流域から水を集め、印旛沼に注いでいる。

遺跡は鹿島川右岸の印旛沼へ迫り出した半島状の台地の南端部に位置している。遺跡からは南に鹿島川に沿って広がる低地を遠方まで見渡すことができる。半島を囲むように広がる印旛沼は、かつて香取の海と呼ばれる内海の一部であった。香取の海は銚子から霞ヶ浦や手賀沼を含んで関東平野の東部に広がり、遺跡が所在する台地周辺は入江として中世まで印旛浦と呼ばれていた。

本遺跡における立川ローム層の堆積状況は、下総台地で広く観察される基本層序と共通する。後世の耕作による掘削が第Ⅲ層の上部まで行われたため、Ⅱ層を確認することができなかった。Ⅰ層は葦竹の根を多く含んだ灰褐色の耕作土であり、その下に立川ローム層が1.7mほどの厚さで堆積している。ソフトローム層であるⅢ層は最大で40cmの厚さがある。ハードローム層であるⅣ層の上部は軟質化してⅢ層に取り込まれている。Ⅴ層は武藏野台地第1黒色帯に相当する。Ⅵ層は始良丹沢火山灰（AT）を含む明黄褐色ハードローム層であり、層厚は10cm程度である。ATはⅦ層にも分散して混入しており、20cmほど堆積が確認された。Ⅸ層は第2黒色帯の下部に相当しているが、分層はできなかった。X層は色調の明暗により2層に分層した。X層の下に比較的軟質な武藏野ロームの最上層であるXI層を確認した。

2 周辺の遺跡（第1図）

印旛沼に臨む岩名周辺の台地上およびその周辺には縄文時代以降の遺跡が確認されており、特に古墳時代の遺跡が数多く分布している（第1図）。今回の調査対象となった萩山新田大久保遺跡内に所在する岩名6号墳は岩名古墳群に含まれており、岩名古墳群はこれまで4次にわたる調査によって6基の古墳が確認されている。岩名1号墳は昭和47（1972）年に、現在の岩名運動公園の造成に伴って調査が行われた。報告書が未刊行であるため詳細は不明だが、外径約12mの隅丸方形に近い円墳であることが確認されている（酒井2001）。岩名1号墳は主体部が検出されておらず、遺物の報告もされていないため時期は不明である。



第3図 基本層序

岩名2号墳、3号墳は平成11（1999）年に財団法人印旛都市文化財センターにより調査が行われ、報告書が刊行されている（酒井2001）。2号墳は24m×22mの方墳で、墳丘の高さが約3.1mである。埋葬施設として墳丘の北東に長方形の深い土坑が確認された。周溝からは土師器甕と短脚の高壺などが出土した。3号墳は1辺14mの方墳で、墳丘の高さが約1.6mである。墳頂部の中央から箱式木棺を直葬したと考えられる埋葬施設が検出された。埋葬施設内からは滑石製白玉64点、ガラス小玉2点が出土したほか、周溝からも土師器甕、小型埴、高壺などが出土している。出土遺物から両古墳は古墳時代中期に築造され、周溝の検出状況から2号墳の方が新しいと報告されている。

岩名4号墳、5号墳は佐倉印西線の工事の予定地内にあり、財団法人千葉県文化財センターにより調査が行われ、平成17（2005）年に報告書が刊行されている（田中ほか2005）。4号墳は直径21mの円墳で、墳丘の高さが2m～2.4mである。墳頂部に箱式木棺を直葬したと考えられる長方形の埋葬施設が検出された。埋葬施設から滑石製白玉2点が出土し、周溝から土師器壺と須恵器甕が出土した。埋葬施設の下、古墳の築造以前の層位から古墳時代中期の甕と壺を組み合わせた土器棺が出土している。5号墳は直径21mの円墳で、墳丘の高さは3.6mである。墳頂部は盜掘による搅乱があったが、埋葬施設として筑波石で構築された板石組箱式石棺が確認された。石棺が埋設された土坑は長軸4.1m、短軸3.3mの不正楕円形を呈し、断面は描り鉢状で深さ0.8mである。墳頂部から須恵器甕、鉄製の刀子や鎌、周溝から土師器壺が出土した。4号墳は古墳時代中期末、5号墳は終末期に築造されたと報告されており、両古墳は中・近世に塚として転用されている。

岩名古墳群が位置する台地上には数多くの古墳が分布しており、現在は前方後円墳1基と3つの古墳群で計41基の古墳が確認されている。最も大きな古墳は山崎ひょうたん塚古墳である。岩名古墳群の南東に位置し、全長（現存）40mの前方後円墳である（猪股2006）。前方部は一部削平され、南端部は崩落し、本来の墳形は不明である。昭和49年にも測量調査が行われているが、いずれの調査も測量を目的としているため遺物の報告はない。台地の先端には10基の円墳からなる土浮古墳群が分布し、最も小さい2号墳と6号墳は墳丘径5m、墳丘の高さは1mであり、最も大きい8号墳は墳丘径10m、墳丘の高さは2mである。萩山11号墳では箱式石棺が検出されており、直刀と鉄鎌が出土している。土浮古墳群から約1.5km東に分布する萩山古墳群は24基の円墳からなる古墳群であり、最も小さい23号墳は墳丘径4m、墳丘の高さは1mであり、最も大きい2号墳は墳丘径20m、墳丘の高さ4mである。萩山4号墳では箱形石棺が検出されている。

岩名古墳群内の岩名町前遺跡では弥生時代後期から古墳時代前期までの集落跡が調査によって確認されており、竪穴住居跡8軒とともに方形周溝墓の可能性がある遺構が2基検出された（石倉ほか2004）。また近年の調査によって、古墳時代前期の住居が新たに2軒検出されている（米倉2015）。台地の南東約500m離れたところには岩名天神前遺跡がある。千葉県において数の少ない再葬墓が検出され、7基の土坑から藏骨器として弥生時代中期の須和田式土器が出土している。鹿島川をはさんだ対岸の台地にも遺跡が分布しており、江原台遺跡や角来駒形1号墳などが確認されている。

以上、岩名古墳群の周辺に広がる弥生時代から古墳時代の遺跡を概観した。印旛沼を望む当台地には数多くの遺跡が認められるが、調査事例は少なく、特に集落跡はわずかに確認されているにすぎない。当台地の立地は印旛沼に臨む比較的良好な環境にあると考えられ、弥生時代中期中葉以降の集落が継続的に営まれた可能性が高く、古墳群を造営した集団も台地内に集落を展開していたものと推測される。

第2章 検出した遺構と遺物

第1節 検出した遺構

1 001 (岩名6号墳周溝) (第4図・図版2)

古墳の周溝と考えられる溝が調査対象範囲の北西から南東へ緩やかな弧を描くように検出された。この溝は佐倉市教育委員会による確認調査で検出された岩名6号墳の周溝の一部である。周溝の幅は4.5m～5mで、検出した長さは約11mである。周溝の土層断面（第4図A-A'）で確認された周溝の断面形状は弧状を呈しており、確認面からの深さは一定ではなく、最も深いところで40cmである。周溝東端の土層断面（第4図B-B'）では第2層以下が地山であり、第5・6・8層は周溝の覆土と考えられる。土層から墳丘の立ち上がりが確認できないため、墳丘は後世の削平によって完全に失われていると推測される。

周溝の覆土下層から土師器2点（第6図1・2）が出土している。これらは出土した層位から岩名6号墳に伴うものであると考えられる。

2 002 (溝状遺構) (第5図・図版2)

調査対象範囲の中央部で検出した遺構である。調査対象範囲を東西方向に横断するように直線的に位置している。検出した長さは9mで、最大幅は中央付近の1.3m、最小幅は西端の0.4mである。地山の褐色土を掘りこんだ溝であり、東端は鉢状で西端は皿状を呈している。掘り込みの深さは東端で50cm、西端で30cmである。底面は東端と西端が低く、中央付近が高い。硬化面は検出されず、遺物の出土はない。

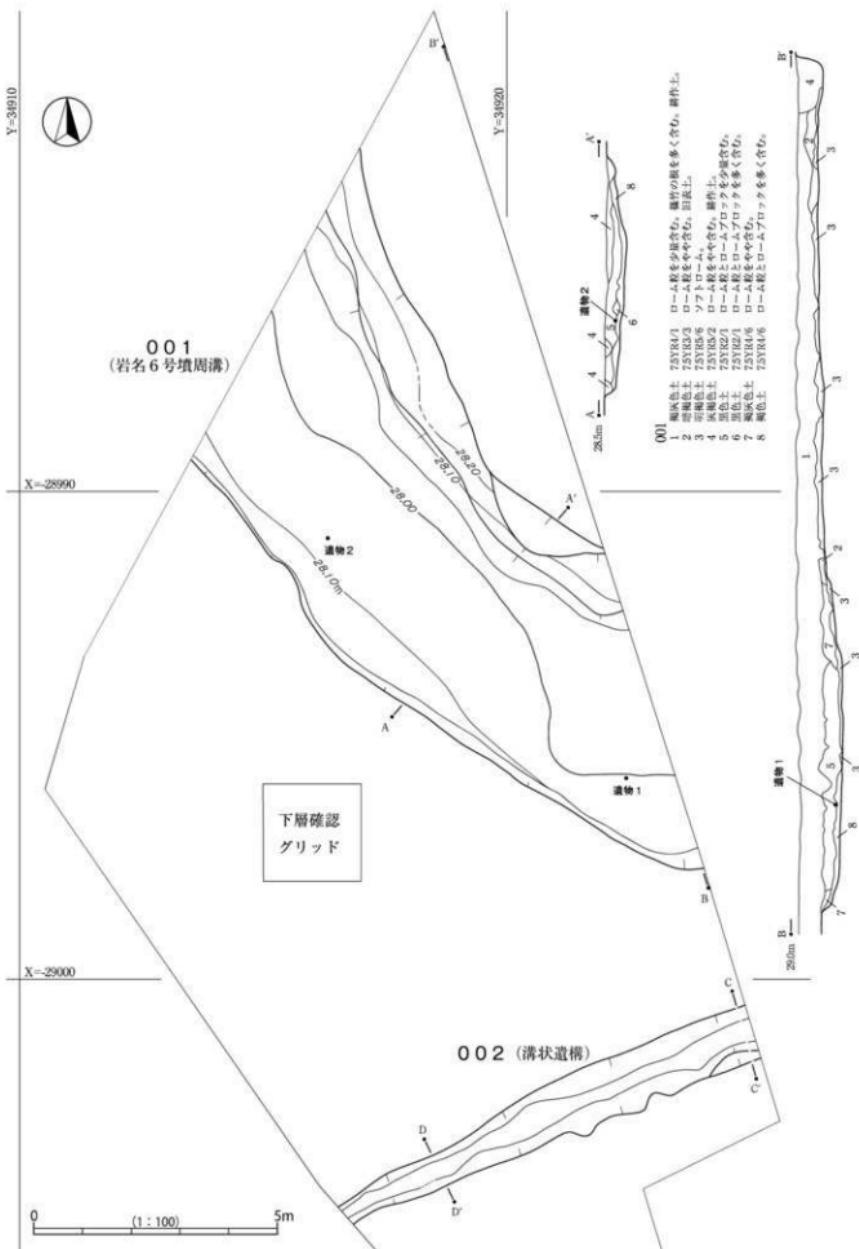
第2節 出土遺物 (第6図・図版2)

今回の調査で出土した遺物は、遺構に伴うと考えられるものとして周溝の覆土下層から出土した土師器があり、その他は二次堆積土ないしは後世の人为的な客土と判断される土層の中から出土した遺物である。出土した遺物は全部で4点であり、古墳時代中期の土師器2点と、弥生時代後期の土器片1点、縄文時代と思われる黒曜石の剥片1点である。以下、出土遺物について記す。

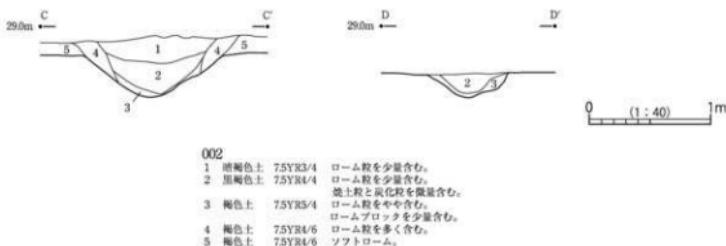
第6図の1は土師器の小型壺であり、胴部最大径は推定9.1cmである。外面調整はヘラケズリの後に細かなヘラミガキとナデが施されている。内面は指頭圧痕およびナデが認められる。内面の調整は粗雑であるが、焼成は良好である。頸部内面と外面に赤彩が塗付されていると考えられる。時期は形状から、古墳時代中期の中頃と考えられる。2は土師器の壺の破片の可能性がある。外面調整はヘラケズリの後にナデが施されており、内面調整としてナデが認められる。焼成はやや不良である。細片のため時期の特定は困難であるが、周溝の覆土下層から出土していることから、1と同様と想定される。

3は弥生時代後期に属すると考えられる土器の小破片である。器種は壺であろう。外面には縄文が見られ、内面には斜位のナデが施されている。

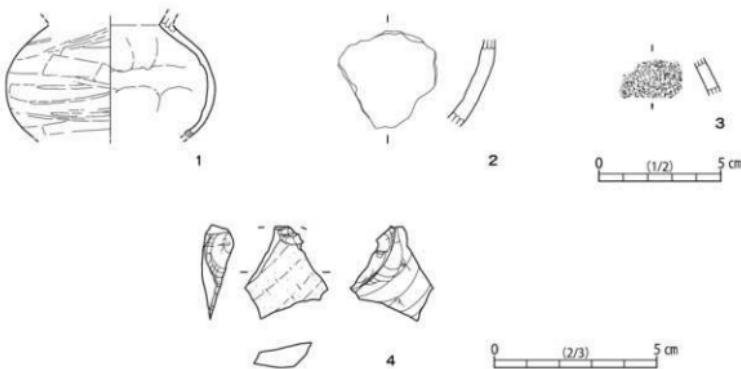
4は縄文時代に属すると考えられる黒曜石の剥片である。長さ2.5cm、幅2.2cm、厚さ0.8cm、重量は2.4gである。自然面および剥離面の上部はくすんだ黒色を呈し、剥離面の下部は淡黒色を呈している。黄灰色円形で直径1mmほどの不純物を含む。



第4図 調査区平面図・周溝断面図



第5図 002溝状造構断面図

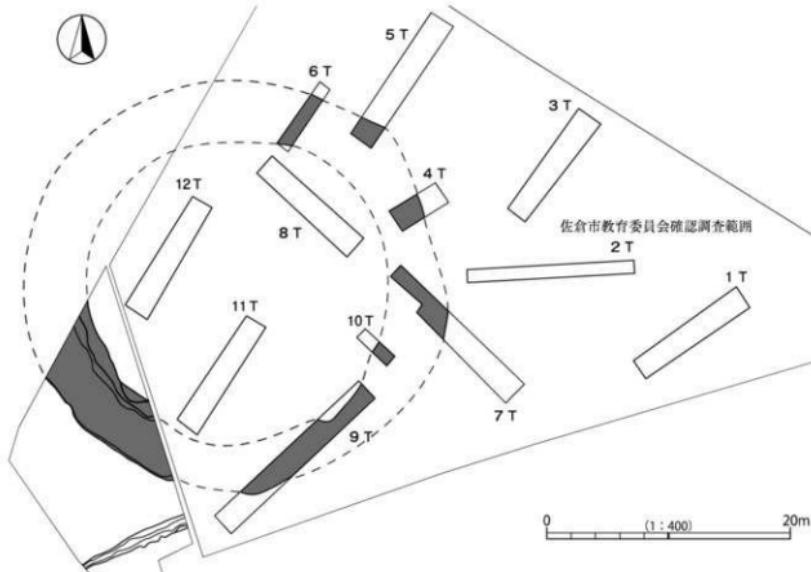


第6図 出土遺物

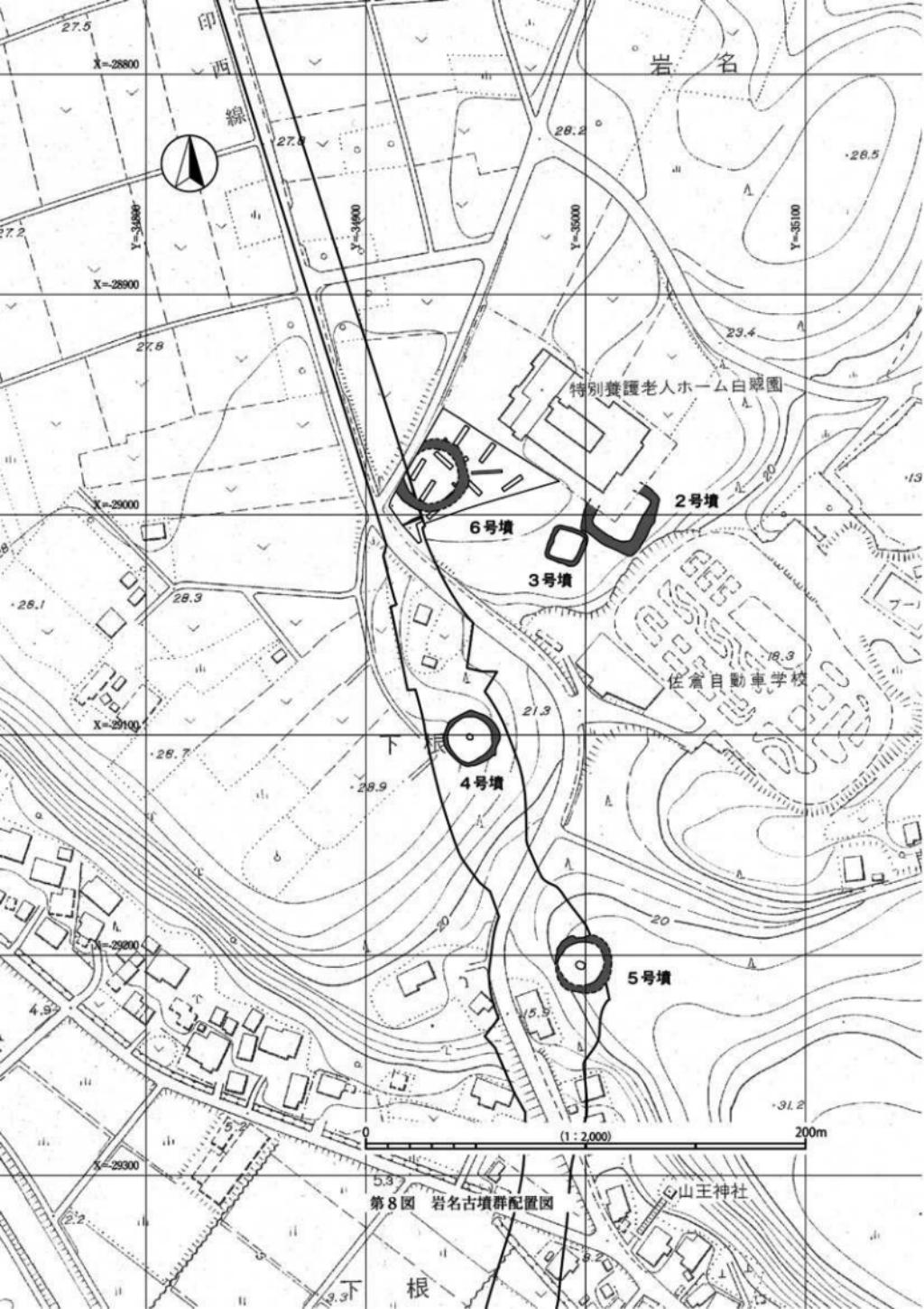
第3章 総 括

今回の調査によって岩名6号墳の周溝の約6分の1が明らかとなり、平成25年度の佐倉市教育委員会の調査と合わせるとおおむね全体像が想定できる。佐倉市教育委員会による調査ではトレンチによる確認調査のみが行われたが、遺物が出土しなかったため古墳が築造された時期の特定には至らなかった。しかし今回の調査において周溝の覆土下層から土師器の小型塔が出土したことから、岩名6号墳の築造時期を推定することが可能であろう。この土師器の時期は、口縁部と底部を欠いているため時期の判定は難しいところはあるが、形状の特徴から千葉県の古墳時代中期土器編年（白井ほか2012）におけるⅢ期（中期中頃）と考えられる。

岩名6号墳の墳形については、佐倉市教育委員会の調査では「周溝の幅が約3.5mを測り、5・9トレンチで屈曲部が確認できることから、一辺約24mの方墳であると考えられる」と報告されている（中山ほか2015）。古墳の墳形は墳丘がすでに削平されているため、周溝によって推測せざるを得ない状況にあり、今回の調査においても墳丘が削平されていることは明らかである。周溝はおよそその幅と形状が明らかになっており、幅は4.5m～5mで断面は弧状を呈し、深さは確認面から最深で40cmである。検出された周溝は北西から南東へ弧を描いており、方墳と判断できる直線を描いていない。この周溝の検出状況と佐倉市教育委員会の調査による成果を合わせると、第7図に示したように方墳ではなく円墳であると考えられる。確かに隣接地の調査では周溝の屈曲部が平面上で確認されているが、トレンチ内のわずかな部



第7図 岩名6号墳墳形推定図



第8図 岩名古墳群配置図

第1表 岩名古墳群の概要

古墳No	墳形	規 模	高 さ	周溝上端幅・下端幅	周溝断面形状	周溝深さ	時 期
1号墳	(円墳)	径 12m	-	-	-	-	-
2号墳	方墳	24m × 22m	3.1 m	4.7m ~ 7m · 3.9m ~ 4.7m	逆台形・弧状	0.4m ~ 1.2m	中期前半
3号墳	方墳	一辺 14m	1.6 m	2m ~ 2.6m · 0.5m ~ 1m	逆台形・V字形	0.3m ~ 0.7m	中期初頭
4号墳	円墳	径 21m	2m ~ 2.4 m	3.7m · 3.5m	弧状	0.4m ~ 0.6m	中期後半
5号墳	円墳	径 21m	3.6 m	4.8m · 2.5m	弧状	0.4m	終末期
6号墳	円墳	(径 26m)	-	(4.5m ~ 5m) · 3.2m	(弧状)	(0.4m)	中葉中頃

分であり、今回の調査で検出した部分の周溝には明確な屈曲部が確認できなかったことから、古墳の形状は円形を呈していると判断され、墳丘径は約 26m と推測される。

これまでの報告をもとに改めて岩名古墳群を概観すると、第1表のとおりである。また詳細が不明である1号墳を除いた各古墳の位置関係を第8図に示した。岩名古墳群は3号墳から5号墳まで、古墳時代中期から終末期まで約250年に渡って築造された古墳群である。6号墳の築造された時期は、周溝の覆土下層から出土した土器小型堆を根拠に、古墳時代中期中頃と考えられる。

岩名古墳群の周辺には土浮古墳群や萩山古墳群が分布している。両古墳群とも円墳のみ確認されており、規模は墳丘径が20mに満たないものが多い。両古墳群と比較して岩名古墳群は方墳が含まれることと、墳丘径が20mを超える古墳が多数であることが特徴である。今回調査を行った岩名6号墳は周辺地域のなかで最大の墳丘径をもった円墳であるといえる。ただし調査が行われた古墳は少数であり、未発見の古墳も周辺に点在することが想定されるため、古墳群の規模も今後の調査のなかで明らかになるであろう。

参考文献

- 佐倉市史編さん委員会 1971 「佐倉市史 卷1」 佐倉市
 間野台・古屋敷遺跡発掘調査団 1977 「間野台・古屋敷：佐倉市臼井中学校建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告」
 　　佐倉市教育委員会
 江原台第1遺跡発掘調査団 1979 「江原台」 佐倉市教育委員会
 千葉県 1980 「土地分類基本調査 佐倉」
 千葉県教育委員会 1997 「千葉県埋蔵文化財分布地図（1）—東葛飾・印旛地区（改訂版）—」
 酒井弘志 2001 「岩名古墳群（2号墳・3号墳）」（公財）印旛都市文化財センター
 石倉亮治ほか 2004 「佐倉印西線（緊急地方道路整備）埋蔵文化財調査報告書—岩名町前遺跡—」
 　　助千葉県文化財センター
 鈴木圭一ほか 2005 「江原台遺跡」（公財）印旛都市文化財センター
 田中 裕・古内 茂 2005 「佐倉印西線（緊急地方道路整備）埋蔵文化財調査報告書2—佐倉市岩名古墳群—」
 　　助千葉県文化財センター
 猪股佳二編 2006 「佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書」 佐倉市教育委員会
 白井久美子ほか 2012 「研究紀要 27—古墳時代中期の房総—中期的要素の波及とその評価」
 　　助千葉県教育振興財團
 佐倉市史編さん委員会 2014 「佐倉市史 考古編（本編・資料編）」 佐倉市
 中山俊之ほか 2015 「平成25年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書」（公財）印旛都市文化財センター
 米倉貴之 2015 「岩名町前遺跡（第3次）」（公財）印旛都市文化財センター

写 真 図 版



越後新田大久保遺跡

航空写真(S=約1/9,000)

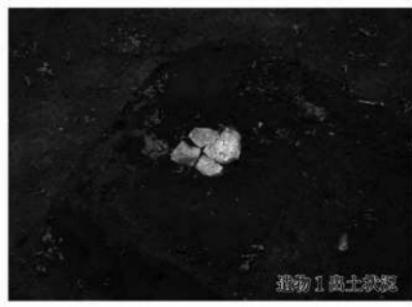
図版 2



001(番名 6号墳周辺) 植生状況



001(番名 6号墳周辺) 植生状況



遺物 1 土器破片



002(番名 6号墳周辺) 植生状況

出土遺物



1



3



2



4

報告書抄録

千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第7集

佐倉市萩山新田大久保遺跡

—主要地方道佐倉印西線（佐倉市田町）事業埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成27年12月7日発行

編集・発行

千葉県教育委員会

千葉市中央区市場町1-1

印 刷

三陽メディア株式会社

千葉市中央区浜野町1397

